

島根県のがん登録2021年 (令和3年) 集計

誰一人取り残さないがん対策を推進し、全ての県民とがんの克服を目指す



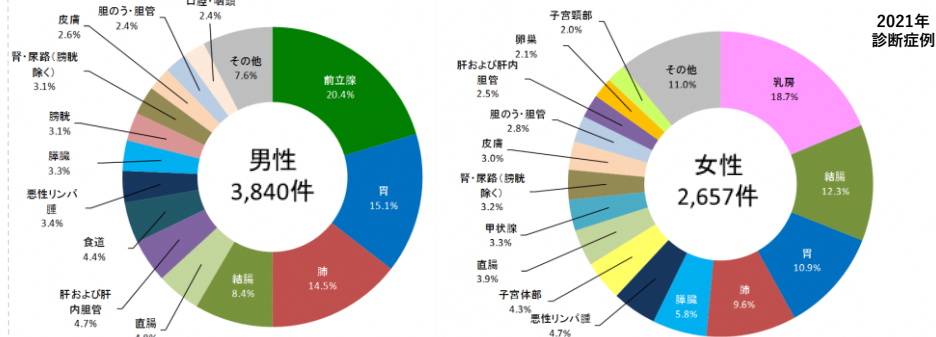
島根県法律事務所
第6100号

がん対策を推進していくためには、がんの発生動向を的確に把握することが大切です。そのため、島根県では全国がん登録により収集された島根県のがん登録データを分析し、県民をはじめ、がん医療に関係する皆様に情報提供することで、皆様と一体となってがん対策に積極的に取り組んでまいります。

1. 島根県でがんにかかった人の数

2021年の島根県における上皮内がん¹⁾を除く罹患数は、6,497件（男性3,840件、女性2,657件）でした。

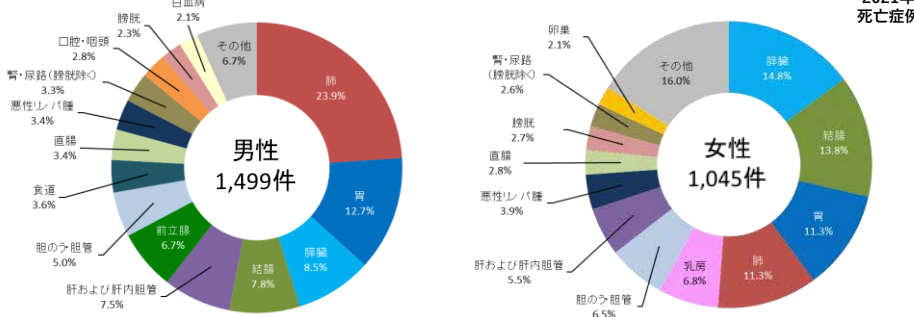
部位別にみると、男性では前立腺がんが最も多く、次いで胃がん、肺がん、結腸がん、肝および肝内胆管がん、食道がんと続いています。なお、結腸と直腸をあわせた大腸がんは、4番目に多くなります。女性では乳がんが最も多く、次いで結腸がん、胃がん、肺がん、膵臓がんと続いています。なお、結腸と直腸をあわせた大腸がんは、2番目に多くなります。



2. 島根県でがんによりなくなった人の数

2021年の島根県でがんを原因とした死亡数は、2,544件（男性1,499件、女性1,045件）でした。

部位別にみると、男性では肺がんによる死亡が最も多く、次いで胃がん、膵臓がん、結腸がん、肝および肝内胆管がんと続いています。なお、結腸と直腸をあわせた大腸がんとして集計すると、大腸がんは3番目に多くなります。女性では膵臓がんによる死亡が最も多く、次いで結腸がん、胃がん、肺がん、乳がんと続いています。なお、結腸と直腸をあわせた大腸がんとして集計すると、大腸がんは1番多くなります。罹患数が比較的多い男性の前立腺がん、女性の乳がんは、死亡数がそれほど多くないことがわかります。

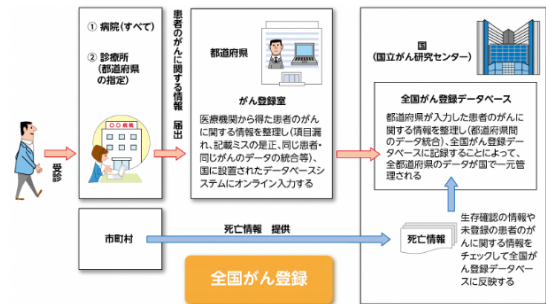


2021年 死亡症例

7. がん登録と個人情報の保護

がん登録は病院や指定診療所から患者さんの診断や治療の情報を収集することで成り立っています。そのため、患者さん個人の特定につながる情報の安全管理に配慮して、情報の収集、保管、活用を行っています。

がん登録等の推進に関する法律では、全国がん登録の業務に従事する者の秘密漏示等の罰則規定が定められており、島根県でも、全国がん登録個人情報保護のための安全管理措置マニュアルに従って全国がん登録島根県がん情報管理要領を定めて、適正に管理を行っています。



8. がん登録データの活用

本リーフレットは、全国がん登録の島根県版がん登録報告書の抜粋ですので、報告書全体については下記の島根県ホームページからご覧いただけます。

報告書に掲載されていないデータについては、がん登録等の推進に関する法律に基づき活用させていただくため、全国がん登録における島根県がん情報等の提供に関する事務処理要領を定めております。市町村や医療機関、ならびにがんに係る調査研究を行う方は島根県ホームページをご確認のうえ、島根県健康福祉部健康推進課がん対策推進室までお問合せください。



島根県のがん登録



https://www.pref.shimane.lg.jp/medical/kenko/kenko/gan/gantourouku-data/zenkokugan_houkokusyo.html

- ¹⁾ 上皮内 限局 リンパ節転移 隣接臓器浸潤 遠隔転移
- ：上皮内にとどまって浸潤していない
 - ：がんが原発臓器に限局している
 - ：領域リンパ節への転移を伴うが、隣接組織、臓器への浸潤がない
 - ：隣接組織、臓器に直接浸潤しているが、遠隔転移がない
 - ：遠隔転移がある
- ²⁾ 領域とは、領域リンパ節転移と隣接臓器浸潤を含む



健康長寿しまね
マスコットキャラクター
「まめなくん」

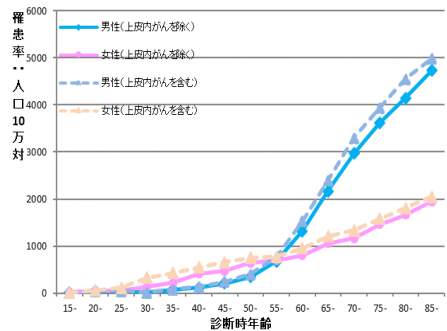
2026 (令和8) 年3月 発行
編集 島根県がん診療ネットワーク協議会
発行 島根県健康福祉部健康推進課
〒690-8501島根県松江市殿町1番地
tel (0852) 22-6701 fax (0852) 22-6328

3. がんにかかりやすい年齢

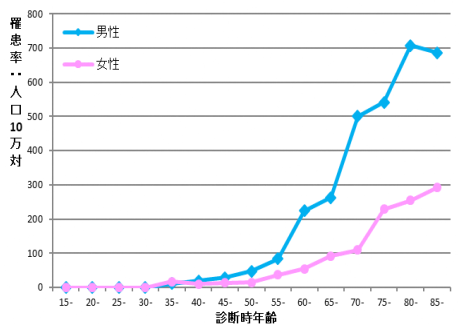
全部位について性別年齢階級別にがん罹患率をみると、20歳から54歳では女性の罹患率が高くなっています。これらは、乳がん、子宮頸がんなどが影響しています。60歳以上の年齢では男性の罹患率が女性より高くなっています。

多くの部位では40歳代から50歳代以降、年齢が高くなるにつれて罹患率が高くなっていますが、乳がん、子宮頸がんなどではより早い年代から罹患率が高くなります。乳がんの罹患率は30歳代から高くなります。子宮頸がんの上皮内がんを含めたがん罹患率は20歳代から50歳代まで高く、その中でも30代後半がピークとなっています。

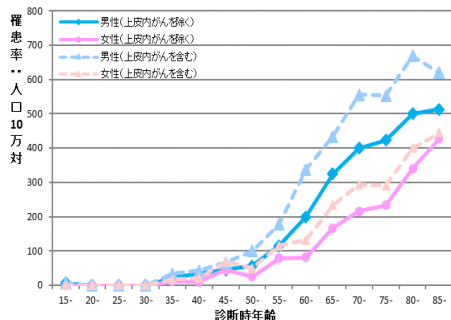
全部位



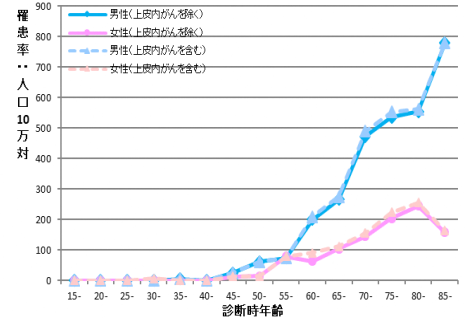
胃



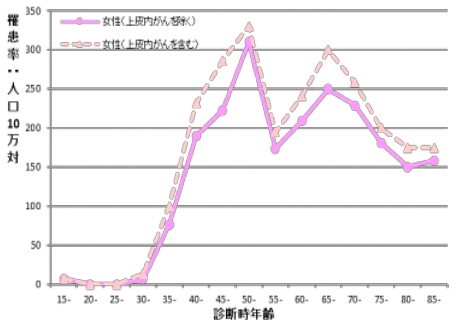
大腸



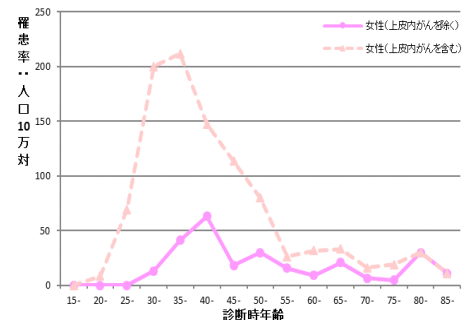
肺



乳房



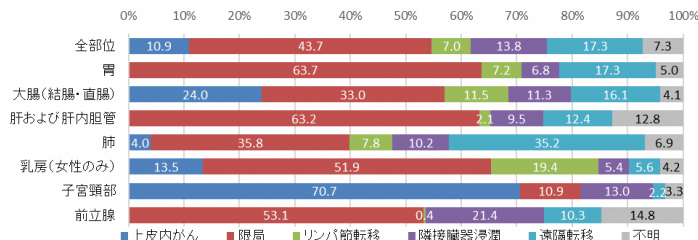
子宮頸部



4. がんの病巣のひろがり

診断時のがん病巣のひろがりを見ると、部位によって進行の程度が異なることが分かります。主ながんで上皮内、限局にとどまっている割合をみると、胃がん、大腸がん、肝および肝内胆管がん、乳がんは6割程度に対し、肺がんは4割程度にとどまり遠隔転移が多いです。その他、子宮頸部がんは8割と高く、前立腺がんは5割程度です。

2021年診断症例

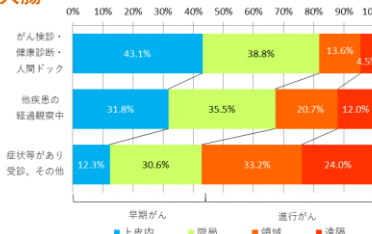


2017年-2021年診断症例

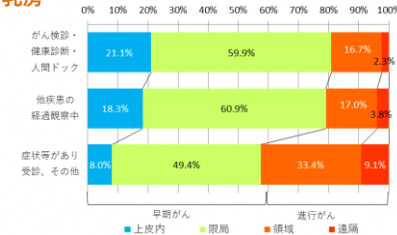
5. がんの発見経緯と病巣のひろがり

がんの発見経緯とがん病巣のひろがりを見ると、症状等があり発見された場合は、がん検診・健康診断・人間ドックで発見された場合よりがんが進行していることが分かります。がんの初期には症状が出ないことが多いので、がん検診を積極的に受診しましょう。

大腸

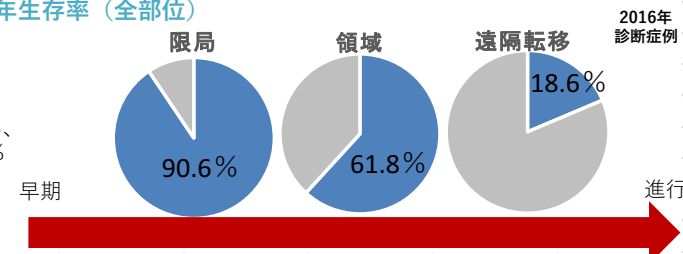


乳房



6. 病巣のひろがりと5年生存率 (全部位)

部位によって5年生存率は異なりますが、全部位の病巣のひろがり別にみると、限局90.6%、領域*61.8%、遠隔18.6%です。早期で発見されるほど生存率は高くなります。



2016年 診断症例

早期 → 進行